

# 大学教員，小学校教員，県の連携・協力による 地域の世界遺産の教材化

—小学校第4学年社会科単元「長崎市の発展に尽くした人」の開発—

土 肥 大次郎, 安 田 一 義

(大学院教育学研究科) (教育学部附属小学校)

Developing the Social Studies Lessons About the World Heritage Site in Nagasaki  
that the University and the Elementary School Collaborated with Nagasaki  
Prefecture: Developing the Unit “The People who Developed Nagasaki”

Daijiro DOHI, Kazuyoshi YASUDA

## 1. はじめに

本研究は，大学の研究者教員と附属小学校教員，そして県の三者が連携・協力して取り組んだ，地域の世界遺産を教材とする単元・授業の開発と実践についてである。

2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録された。この遺産は12の構成資産から成り，これらは顕著な普遍的価値を有するとユネスコ世界文化遺産委員会で高く評価され，登録決定となった。世界遺産登録は，構成資産がある長崎県や熊本県だけでなく全国の大きな話題となったが，一方で問題点も幾つか指摘されている。マスコミの報道では遺産の継続的な保護・管理，あるいは地域住民の生活や信仰と観光との調和などに言及したものが多<sup>1)</sup>，11の構成資産がある長崎県では，県の子どもたちによる潜伏キリシタン関連遺産の学習についても課題としている。この遺産は，多くの構成資産が他所からは訪れにくいところに位置し，また学校で学習される機会も少なく，県の子どもに知られていないものも多い。こうした状況に対し，長崎県では世界遺産登録推進課（2018年10月からは世界遺産課）が取り組みを進めてきた。

本小論の筆者である大学の研究者教員と附属小学校教員の二人は，普遍的価値を有する地域の新たな世界遺産の教材化の必要性を認め，2018年度より長崎県世界遺産登録推進課“潜伏キリシタン遺産”情報戦略懇話会委員となった。そして，県とともに潜伏キリシタン関連遺産を教材とする小学校での授業の開発と実践に関わった。三者は連携・協力して取り組みを進めたが，一方でそれぞれの大きな関心は必ずしも同一ではなかった。

まず，この取り組みをはじめた県は，遺産について「将来にわたって保護していく役割を担っている」のは県の子どもと捉え，遺産を教材化した授業の拡大・普及により「子どもたちに興味をもってもらい，本遺産を保護する意識を醸成していく」<sup>2)</sup>ことをねらいとしていた。具体的には，小学校での授業実践にもとづき，各学校で利用できる「学習素材」の開発を行い，それをを用いた教育委員会等への働きかけをめざしていた。

そして、県が長崎大学に協力を依頼し、社会科教育学を専門とする研究者教員（土肥）が協力することになった。研究者教員の関心は、地域の文化遺産を扱う新たな授業の開発や実践において、三者はどのように連携・協力していくことができるか、そしてより大きな関心は、三者のどのような考えや話し合いによりどのような授業が開発・実践されることになるかであった。長期的には、県内で潜伏キリシタン関連遺産を扱う授業が普及・定着したり、あるいはしなかったりすれば、それは人々や組織のどのような活動や相互作用によるものかも考察したいと考えた。

県と研究者教員から協力を依頼された附属小学校教員（安田）は、長崎における地域学習の教材開発に長年意欲的に取り組んでおり、長崎の新たな世界遺産を扱う授業に強い関心をもった。話題にはなっているが子どもたちはあまり知らない、普遍的価値を有する長崎の遺産を教材化し、学習に取り組ませたい気持ちが大きかったのである。また、自らが開発や実践した長崎の授業を、広く知ってもらう機会になるとも考えた。

このように三者はそれぞれの関心をもっていたが、本研究は研究者教員の関心である、①どのように連携・協力ができるか、②どのような連携・協力があってどのような授業になったかを論じたい。①については2章で、単元・授業開発や実践のPDCAに即して示す。②は3章に示し、さまざまな合意や決定が、三者のどのような考えや話し合い・交渉によるもので、最終的にどのような授業になったかを論じる。

## 2. 大学教員，小学校教員，県の連携・協力

ここでは授業のPDCAではなく、少し広い視野から「単元・授業開発や実践」のPDCAに即して三者の連携・協力について記述、説明する。

P（計画）において、まず県は2018年度に小学校での授業の計画を練り、2019年度に授業実践をして、それにもとづき「学習素材」開発に取り組み、拡大・普及をめざしていくという基本方針を立てた。そのため、小学校で授業を実践するところまでをまずは重視し、授業実践に至るための方略を求めて大学に協力を依頼した。

大学理事の仲介があり、2018年3月から4月にかけて、県と研究者教員とで話し合いを行った。協力を依頼された研究者教員は、小学校での授業実践に向けては、P（計画）では主に県と研究者教員で方針や大枠を提示し、それにもとづきD（実行）は実績のある小学校教員を主体として、大きな裁量をもって授業開発や実践をすることが、より確実な過程になると考え、こうした連携ができればよいが、別の形もあらうと考えていた。

4月の話し合いで研究者教員は、小学校社会科で潜伏キリシタン関連遺産を扱うことができる学年や単元を提示し、総合的な学習の時間でも扱えることを県に伝えた。そして、第3、4学年での地域学習で潜伏キリシタン関連遺産を扱うことを提案し、特に第4学年の「県内の伝統や文化、先人の働き」（平成29年版指導要領）で扱いやすく、附属小学校4年担当教員が長崎の地域学習のための教材開発に熱心に取り組んでいることを伝えた。

県はこうした提案に納得し、両者は間もなく附属小学校4年担当教員に協力を依頼した。依頼された附属小学校教員も、第4学年の「県内の伝統や文化、先人の働き」で実践可能という見通しをもった。そして、第4学年を担当している2018年度中に単元・授業開発と実践まで目指すことになり、県の当初の計画を早めることになった。

その後、2018年7月、三者に“潜伏キリシタン遺産”情報戦略懇話会の一部の委員も加

わり話し合いを行った。ここでは、オリジナルの資料作成など県が協力できることを確認したり、小学校教員からは「先人の働き」としてド・ロ神父を取り上げていくという提案が為されたりした。そして、この話し合いでは、潜伏キリシタン関連遺産に関する現在の社会問題も授業で取り上げ、子どもが主体的に選択・判断、構想する場面を設定することが望ましいとし、潜伏キリシタン関連遺産に関する具体的な問題も話題となった。

7月の話し合いではその他、三学期に授業を実践し、2月の附属小学校の教育研究発表会で授業を公開するなどの今後の予定、そしてキリスト教のための宗教教育だと受け取られないようにすることなども確認された。

D（実行）の主体は小学校教員が担った。小学校教員は、構成資産である外海の出津集落（長崎市）と明治期にその発展に尽くしたド・ロ神父とを組み合わせ、さらに地域住民の生活や信仰と世界遺産登録後の観光との調和という現在の社会問題も取り上げて、単元「長崎市の発展に尽くした人々〜ド・ロ神父と潜伏キリシタン関連遺産〜」を開発した。授業実践は2019年1月から2月にかけての13時間で、単元前半には出津集落への見学・調査活動もあり、13時間の学習後は長崎県庁で世界遺産提案会を行った。

D（実行）において、研究者教員と県は助言等もしたが、全体としては支援者として機能した。研究者教員は、長崎大学研究企画推進委員会プロジェクトで大学の支援を得て、授業に必要な教材や教具、参考資料の提供等を行った。そして、県はより大きな支援を行った。具体的には、小学4年向けの補助教材の作成、見学・調査活動での現地の人々との交流のコーディネート、世界遺産に関する授業でのゲストティーチャー派遣、授業実践の記録、長崎県庁での世界遺産提案会の運営等を行った。なお、補助教材は小学校教員の依頼で作成され、「世界遺産って何だろう?」、「日本にある世界遺産」、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」って何だろう?」、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」物語」など計10ページで構成され、写真や絵、地図などが多用されて文字は少なく、小学校で使用しやすいよう工夫されており、授業実践で大いに活用された。

C（評価）は、2019年2月末に三者で行った。県が一定の方針を立て、研究者教員を中心に学校現場に即した大枠を提示し、適当な学校教員に協力を依頼し、経験豊富な学校教員が実行して他の二者が支援するという形が、授業実践まで実現させるうえで有効に機能したことを確認した。授業構成や実践についての成果や課題も確認し、県の世界遺産課担当者は、一年間でここまでできるとは考えてなかった、と語っていた。

本単元・授業についての開発の経過や構成、実践などに関しては、『世界文化遺産 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 子ども向け学習素材検討にかかわる報告書』にまとめられ、2018年度末に発行された<sup>3)</sup>。

A（改善）に関しては、他の学校での実践に向けて、という点から述べる。この点については、今後授業開発や実践をする教員の参考となるよう、先の報告書に小学校教員は成果、課題、所感を著し<sup>4)</sup>、最後に「多くの学校で新たな実践が展開されること」への期待を述べている。課題では、①歴史的背景を知らない4年生が潜伏キリシタン関連遺産について学習することは難しく、補助教材を必要とすること、②長崎市以外の小学校での単元開発でどの人物とどの構成資産とを組み合わせしていくか、検討が必要なことを挙げている。また、研究者教員は「各学校での実践に向けて」を著し<sup>5)</sup>、本実践の特質とともに、拡大・普及に向けて各学校で実践しやすい簡略化した授業の在り方も示している。それ

## 資料1 長崎県作成の学校教育用補助教材



は、①本実践は子どもの学習課題、現代社会の問題、両方に取り組むが、子どもの学習課題だけに取り組む授業も考えられること、②多様な学習方法を組み合わせ、現地での直接観察や社会参加も行う大掛かりなプロジェクト型の学習となっているが、実際の社会に出て調査や提案までするのでなく、教室での調査や提案までとすることなども考えられること、③長崎市内の小学校で実践された授業だが、県内各地の学校で同じ教材で実践してもよいし、各地ならではの教材開発をしてもよいこと、などである。

2019年度、報告書等を用いた県の働きかけなどもあり、潜伏キリシタン関連遺産を教材とする授業は拡大の動きがみられる。附属小学校5年、中学校2年では、総合的な学習の時間で学習が為され、構成資産がある五島や平戸でも授業実践が計画されている。

今回は、地域の新たな世界遺産の教材開発で、授業実践まで結びつけることが求められ、実際には13時間という大きな単元となり、社会参加まで行う実践に至った。その実現の大きな要因と考えられるのは、県から研究者教員へ、そして小学校教員へ、それぞれが一定の考えを持ちながらも大きな裁量を持たせてバトンを渡していったことにある。県は小学校での授業実践をめざしたが、子どもが興味をもつことを優先し、遺産の扱い方に細かな注文はしなかった。研究者教員は単元を指定し望ましい方向を示したが、具体的な授業開発や実践は小学校教員に任せた。その方が学校の教員は意欲的に取り組み、教室の子どもの実情に合った授業になると考えたためである。そして、小学校教員は、自分の授業として熱心に開発や実践に取り組み、そして支援等もあり挑戦的に取り組むことができた。



### 3. 連携・協力にもとづく単元・授業開発と実践

#### (1) 単元「長崎市の発展に尽くした人々」の構成

開発した単元「長崎市の発展に尽くした人々～ド・ロ神父と潜伏キリシタン関連遺産～」のねらいを次に示し、学習活動の概略を後の表1に示す<sup>6)</sup>。

- ・地域の発展に尽くしてきた先人の働きについて調べることで、自分たちの地域の生活が先人の働きによって支えられてきたことを理解することができる。
- ・先人の営みが世界遺産につながり、新たな価値として認められたことを知る。
- ・世界遺産の現状や課題について関心をもつとともに、自分たちも地域の一員として、これからの地域の発展のためにどのように関わっていけばよいのか考えることができるようになる。

開発した単元は、第4学年「県内の伝統や文化、先人の働き」の内容で、この内容全体を扱う大きな単元であり、複数の学習内容や活動を組み合わせて構成している。以下では、こうした単元・授業開発に至るまでの各時期での合意内容や決定事項を示し、それが三者のどのような考えや話し合いによるものかを論じる。さらに、小学校教員の考えのもとで実際に開発された授業も示す。

#### (2) 第4学年「県内の伝統や文化、先人の働き」での単元開発

2018年4月、潜伏キリシタン関連遺産を扱う授業の開発に向けて、第4学年「県内の伝統や文化、先人の働き」で単元開発を進めることが決定した。

以前、県が高校生や大学生などのために作成した潜伏キリシタン関連遺産についてのDVD「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、潜伏キリシタンに関する歴史や全構成資産の価値等を網羅して、幅広い知識を提示するものであった。そして、小学校での授業実践に向けて県ははじめ、通史の歴史授業の中で、潜伏キリシタンおよび関連遺産について、ある程度詳しく扱う授業をイメージしていた。

しかし、研究者教員は、第6学年の歴史学習で潜伏キリシタン関連遺産について多くの時間をかけるのは難しいと考えた。比較的多くの学習内容を扱う第6学年の社会科授業で、さらに多くの内容を加えることは、特定の小学校で実践しても、県内での拡大・普及にはつながりにくいと考えた。

そして、第3、4学年での地域学習で潜伏キリシタン関連遺産を扱うこと、具体的には第4学年の「県内の伝統や文化、先人の働き」で扱うことを提案した。こうした提案をした理由の第一は、第3、4学年の地域学習では多くの時間をかけたプロジェクト型の学習を組織しやすく、県の遺産の学習にじっくり取り組むことができるためである。第二は、第3、4学年での地域学習は、教科書には他地域のことが掲載されており、各学校・教員がオリジナルで県内についての教材開発をする負担は大きく、新たな授業を提示できれば、県内で拡大・普及させやすいと考えたためである。第三は、第4学年の「県内の伝統や文化、先人の働き」の「県内の伝統や文化」について、潜伏キリシタン関連遺産を「県内の文化財」として、その「現在に至る経過、保存や継承のための取組」（平成29年版指導要領）の授業が考えられたことである。第四は、積極的に地域学習の授業を開発してきた附属小学校教員が、2018年度は第4学年を担当していることを知っていたことである。

一方で次のような点も考えていた。一つは、第4学年の地域学習では潜伏キリシタンの歴史を十分に知ることは難しいこと。もう一つは、長崎県内11の構成資産を網羅して扱う学習にはならないこと。「県内の伝統や文化、先人の働き」での学習とした場合、特定の

構成資産に焦点を当てた授業になることが予想された。

研究者教員は以上の全てを県に伝えて提案したが、以前のDVDの構成と大きく異なり、当初の県のイメージとも異なるため、それほど強くは提案しなかった。しかし、県は第4学年「県内の伝統や文化、先人の働き」での授業の積極的な理由を理解し、また第4学年での学習が、将来的に潜伏キリシタンおよび関連遺産の歴史の理解、そして様々な構成資産への興味に結び付けば良いとした。

最終的には小学校教員が遺産の教材化に強い関心を持ち、第4学年「県内の伝統や文化、先人の働き」での実践が可能という見通しをもったことで決定に至った。

### (3) ド・ロ神父の活動や業績の教材化および現在の社会問題への選択・判断

2018年7月、潜伏キリシタン関連遺産を扱う授業を、第4学年「県内の伝統や文化、先人の働き」において開発していくうえで、「県内の伝統や文化」の「現在に至る経過、保存や継承のための取組」についての学習ほか、ド・ロ神父の活動や業績も教材化すること、そして遺産に関わる現在の社会問題に対し、子どもが主体的に選択・判断、構想する場面を設定することをめざすことになった。

まず、ド・ロ神父を取り上げることは、小学校教員の提案である。こうした提案をした理由の第一は、附属小学校が長崎市にあり、ド・ロ神父が長崎市に位置する構成資産、外海の出津集落でかつて活動し業績を残したことである。第二は、ド・ロ神父が布教だけでなく、地域の人々の苦しい生活を改善するため、建築、土木、農業、医療、福祉、教育など、さまざまな活動をして多くの業績を残し、地域の発展に尽くした先人として取り上げることがふさわしいためである。第三は、長崎市教育委員会編集・発行の小学3・4年社会科副読本『新しい伸び行く長崎』にド・ロ神父の記述があり<sup>7)</sup>、授業で活用できるためである。なお、副読本では「市の発展につくした人」として、水の問題の解消に努めた倉田次郎右衛門と金井俊行、原爆投下後に医者・研究者として貢献し、作家としても活動した永井隆の記述もあり、これまで長崎市内では永井隆を取り上げた授業が多かった。

潜伏キリシタン関連遺産から考えれば、ド・ロ神父は数多くの構成資産の一部にのみ関わった人物である。また、外海の出津集落で考えても、禁教期にキリスト教由来の聖画像をひそかに拝むことによって信仰を实践した集落として構成資産になっており、ド・ロ神父が出津集落に聖堂や教会堂を建てたことは、潜伏の歴史の終わりの象徴となったような出来事である。ド・ロ神父を大きく取り上げることは、県にとっては遺産の扱いがより限定的になることを意味する。そして、研究者教員にとっては、指導要領の「県内の伝統や文化、先人の働き」での「伝統や文化」に関する単元開発を考えており、「先人の働き」も含めた大きな単元はあまり想定していなかった。

しかし、ド・ロ神父を取り上げることに反対はなかった。それは、子どもが遺産に対して興味をもつうえで、わかりやすい入り口になると理解したためである。そして、授業を实践する小学校教員が自ら、「県内の伝統や文化、先人の働き」での学習全体をカバーする大きな単元とすることに、前向きな姿勢を示したからである。

次に、現在の社会問題に対する主体的な選択・判断の場面の設定は、小学校教員と研究者教員がともに前向きに考えて出てきたものである。小学校教員は、これまでも「社会と関わり続ける子ども」の育成をめざし、「実社会の課題に対する選択・判断」を行う授業を構成してきた<sup>8)</sup>。そして、研究者教員の方は、社会問題を扱う社会科学習を重視して論

文等を発表してきた<sup>9)</sup>。両者には授業における社会問題の扱い方で違いもあるが、社会形成者育成を重視して選択・判断、構想までめざそうとする点は共通している。

そして、この話し合いは、潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産に登録されて一カ月を経ない時期のもので、当時マスコミによる多くの報道があり、その中には遺産に関わる問題を伝えるものも多かった。こうした中、附属小学校教員からも研究者教員からも、地域住民の生活や信仰と観光との調和など、現在の問題を授業で扱うことへの前向きな考えが出て、子どもが主体的に選択・判断、構想することの重要性を確認した。

これに対し、遺産への子どもたちの興味や遺産の保護を重視する県も、遺産の現在や未来を考える授業に好意的であった。どの社会問題を扱うかは明確にしなかったが、社会問題への選択・判断、構想の場面の設定をできるだけめざすことになったのである。

#### (4) 単元「長崎市の発展に尽くした人々」の開発

以上のように、世界遺産学習というベクトルと、学校現場でリアルに実践してさらに拡大・普及を図るというベクトル、それに三者それぞれの関心などがせめぎあい、これらに加え、話し合いがあった時期の社会状況も要因となり、一定の合意や決定が為された。ただし、最終的には小学校教員が大きな裁量をもち、単元・授業開発や実践を進めた。

単元は、計13時間の授業と世界遺産提案会からなる大きな単元で、単元名や「ねらい」、表1の学習活動から分かるように、次の三つの学習を組み合わせで構成されている。

一つ目は、外海の出津集落の発展などに尽くしたド・ロ神父の願いや努力を理解する学習である。二つ目は、遺産の継承等に関わる人々の願いや努力、世界遺産登録に向けての願いや努力を理解する学習である。三つ目は、世界遺産登録後の社会問題である、地域住民の生活や信仰と観光との調和に関して、考察や選択・判断、構想していく学習である。選択・判断は「潜伏キリシタン関連遺産に多くの観光客は必要か」についてで、それぞれ

表1 単元「長崎市の発展に尽くした人」の学習活動

時	実施	学習活動
1	1/15	選択・判断① 「潜伏キリシタン関連遺産に多くの観光客は必要か」 学習問題づくり「外海の出津集落が世界遺産になるまでには、人々のどのような願いや努力があったのだろうか」
2	1/16	予想&学習計画を立てる
3	1/18	見学・調査活動「見学・調査活動「外海の出津集落」
4	1/18	
5	1/22	調べる① 「ド・ロ神父の「建築」の願いや努力」
6	1/23	調べる② 「ド・ロ神父の「農業」の願いや努力」
7	1/25	調べる③ 「ド・ロ神父の「福祉・医療」の願いや努力」
8	1/28	調べる④ 「ド・ロ神父の「土木・教育」の願いや努力」
9	1/30	調べる⑤ 「世界遺産とは何か」
10	2/1	調べる⑥ 「「潜伏キリシタン関連遺産」について」
11	2/4	学習問題のまとめ（「外海の出津集落が世界遺産になるまでには..」のまとめ）
12	2/7	選択・判断② 「潜伏キリシタン関連遺産に多くの観光客は必要か」
13	2/13	構想 「長崎県庁への提案書作り」
一	2/21	世界遺産提案会（於長崎県庁）

（筆者（安田）作成）

の多様な立ち位置より、遺産に関わる諸問題の改善策の提案も行った。さらに、子どもの意欲的な学習により、県庁で世界遺産提案会まで行うことになった。

これら三つの学習を組み合わせることで、指導要領にある「県内の伝統や文化、先人の働き」の全体を扱う学習とし、さらに世界遺産の学習および現代の社会問題についての学習に取り組むことができるようにした。

次頁以降に、ド・ロ神父の願いや努力を理解する第5時「ド・ロ神父の「建築」の願いや努力」を提示し、そして遺産に関わる様々な人々の願いや努力をまとめる第11時の授業を提示し、さらに現代の社会問題についての第12時「潜伏キリシタン関連遺産に多くの観光客は必要か」を提示する。最後に、世界遺産提案会での県への提案の一部を示す。

実際の授業では、子たちは積極的に自分の考えや意見を発表するなど、先述したとおり意欲的に学習に取り組んだ。最後の提案では、人々の願いや努力を受け止め、今の自分たちで考えられる改善策を真剣に検討し、その結果を簡潔に工夫して県庁で発表できた。授業に対する県の評価は高く、社会の中でもマスコミにたびたび取り上げられた<sup>10)</sup>。

#### 4. おわりに

本研究では、地域の遺産を扱う授業の開発や実践に関する三者の連携・協力について、予定より早く進行し、大きな単元で社会参加まで行ったケースに関し記述、説明した。さらに、新たな世界遺産を扱うという方針から始まり、複数の学習を組み合わせで構成された大きな単元の開発や授業実践に至るまで、どのような考えや話し合いがあって、どのような合意や決定が為されていたのか、時間的に組織して記述、説明することができた。今後、授業が普及・定着したり、あるいははしなかったりするまでの変化等を示したい。

#### 【註】

- 1) 例えば、長崎新聞社は2018年7月5日「祈りの場 信仰生活 乱される不安」と題した記事を配信している。<https://this.kiji.is/387409295912731745?c=174761113988793844>
- 2) 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」保存活用実行委員会編集・発行『世界文化遺産 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 子ども向け学習素材検討にかかわる報告書』2019年、p.1.
- 3) 平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）を得て、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」保存活用実行委員会が発行した（2019年3月）。
- 4) 前掲報告書、2019年、p.57.
- 5) 前掲報告書、2019年、p.58.
- 6) 前掲報告書、2019年、pp.9-10.
- 7) 長崎市教育委員会編集・発行『新しいのびゆく長崎』2018年改訂、pp.204-213.
- 8) 長崎大学教育学部附属小学校編集・発行『平成30年度 研究紀要』2019年、pp.16-22.
- 9) 例えば次の論文がある。土肥大次郎「市民的資質育成にもとづく社会問題学習の検討—近年の多様な社会問題学習の特質と新たな授業の開発—」『社会系教科教育学研究』第29号、2017年.
- 10) 例えば新聞では、長崎新聞1月19日、2月5日、2月20日、2月22日、朝日新聞2月1日、西日本新聞2月15日（いずれも2019年）で報道された。



## 【第5時】「調べる① ド・ロ神父の『建築』の願いや努力」展開案

ド・ロ神父の「建築」に関する願いや努力について、見学や各種資料で調べたことをまとめることができる。

類	教師の関わりおよび予想される子どもの反応
問題をとらえる	<p>1 本時の学習内容を確認する。(5分)</p> <p>T <b>社会科見学の様子(写真)</b> 提示</p> <p>P 前は、外海の出津集落に見学に行きました。</p> <p>P 見たり聞いたりしていろいろなことが分かりました。</p> <p>P 見学して調べたことをまとめていきたいです。</p> <p>T そうですね。ド・ロ神父の願いや努力について6つの視点で調べていくのでしたね。</p> <p><b>ド・ロ神父の略伝(カード)</b> 提示 ※ノートに貼る</p> <p>P 「つくる」と書いてあるところが多いですね。</p> <p>P これは「建築」と関係ありそうですね。</p> <p>T ド・ロ神父は、多くの建築を手掛けているのですが、その中でも最も重要なものがこれになります。</p> <p><b>出津教会堂(写真)</b> 提示</p> <p>P そうか、キリスト教を広めるためにやってきたんだよね。</p> <p>P 外海はキリスト教の人が多いのに教会がなかったんだよね。</p> <p>P 今日は「建築」の願いや努力について調べてまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】…「建築」</p> <p>ド・ロ神父は、どのような願いや努力で出津教会堂をつくったのか調べよう。</p> </div>
見通しをもつ	<p>2 解決の見通しをもつ。(10分)</p> <p>T <b>大浦天主堂(写真)</b> 提示</p> <p>P 大浦天主堂です。見たことがありますよ。</p> <p>P 大きいですね。</p> <p>P 出津教会より大きいですね。</p> <p>T たしかにそうですね。では、教会の中はどんな？</p> <p><b>大浦天主堂の内部(写真)と出津教会の内部(写真)</b> 提示</p> <p>P 大浦天主堂の内部が豪華な感じがします。</p> <p>P ステンドグラスが素敵です。</p> <p>P 同じ教会でも、いろいろとつくりが違うんですね。</p> <p>T 出津教会堂は、<b>小高い場所に建てられ、天井が低く、ステンドグラスもありません。</b></p> <p>大浦天主堂は、平地に建てられ、天井も高く、ステンドグラスもあります。</p> <p>P なぜ違うのだろう？</p> <p>T では、ド・ロ神父がどんな願いや努力(工夫)でこの出津教会を建てたのか調べてみましょうね。</p> <p>T どんな方法で調べますか？</p> <p>P 見学で聞いたことを活用します。</p> <p>P のびゆく長崎です。</p> <p>P パンフレットもあるでしょう。</p> <p>P 先生の資料もあるなら使います。</p> <p>T なるほど、今日は出津教会の「パンフレット」を使って調べてみましょう。教会のことがくわしく書かれていますからね。</p> <p>それでは、調べたことをノートにまとめていきましょう。</p>

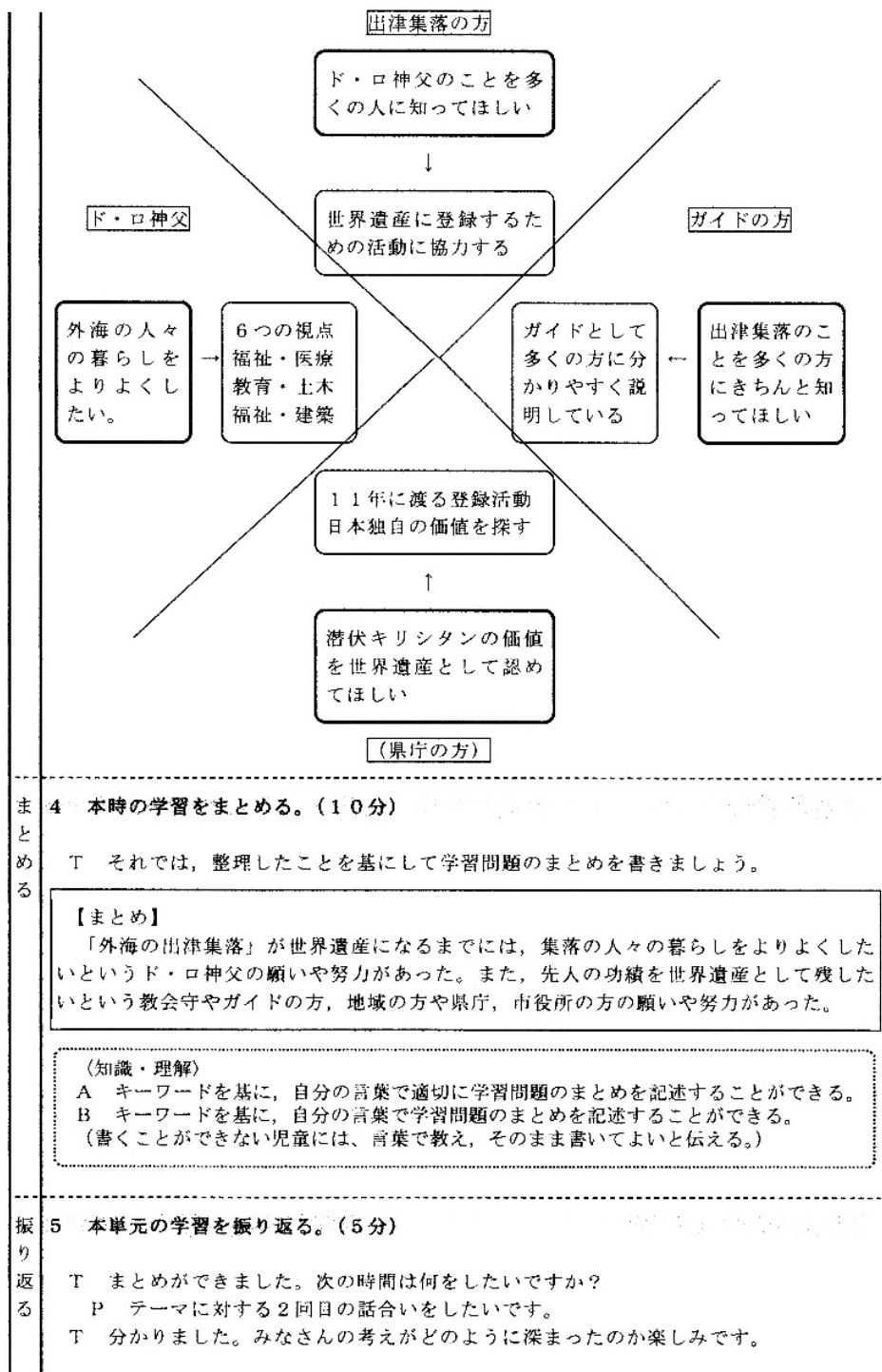
解決する	3 自分で調べ、全体で開き合う。(20分)					
	P (各種資料を用いて調べたことをノートにまとめていく)					
	<table border="1"> <tr> <td>願い</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外海に来たとき、信者の数が3000人近くになっていた。</li> <li>・そこで、「外海の信者を助けたい」と教会をつくることを決意した。</li> <li>・外海の信者の信仰の場をつくりたい。</li> </ul> </td> </tr> </table>	願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外海に来たとき、信者の数が3000人近くになっていた。</li> <li>・そこで、「外海の信者を助けたい」と教会をつくることを決意した。</li> <li>・外海の信者の信仰の場をつくりたい。</li> </ul>			
	願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外海に来たとき、信者の数が3000人近くになっていた。</li> <li>・そこで、「外海の信者を助けたい」と教会をつくることを決意した。</li> <li>・外海の信者の信仰の場をつくりたい。</li> </ul>				
<div style="text-align: center;">↓</div> <table border="1"> <tr> <td>努力 (場所)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(イエスとマリアが) 集落を見渡せる高台を選んだ。</li> <li>・集落のみんなからも目立つような場所を選んだ。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>努力 (だれと)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・ロ神父を中心にみんなで心を一つにしてつくった。</li> <li>・地元の青年と約10 km離れた山に入って材木を調達した。</li> <li>・土曜日、村に戻り、日曜日はミサ、そして月曜日に山。1年続けた。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>努力 (工夫)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風が強い外海の気候を考えて、低い建物にした。</li> <li>・洋風建築で丈夫で実用的な建物にした。</li> <li>・ステンドグラスもなく、日本の伝統建築のあたたかさがある。</li> </ul> </td> </tr> </table>	努力 (場所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(イエスとマリアが) 集落を見渡せる高台を選んだ。</li> <li>・集落のみんなからも目立つような場所を選んだ。</li> </ul>	努力 (だれと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・ロ神父を中心にみんなで心を一つにしてつくった。</li> <li>・地元の青年と約10 km離れた山に入って材木を調達した。</li> <li>・土曜日、村に戻り、日曜日はミサ、そして月曜日に山。1年続けた。</li> </ul>	努力 (工夫)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風が強い外海の気候を考えて、低い建物にした。</li> <li>・洋風建築で丈夫で実用的な建物にした。</li> <li>・ステンドグラスもなく、日本の伝統建築のあたたかさがある。</li> </ul>
努力 (場所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(イエスとマリアが) 集落を見渡せる高台を選んだ。</li> <li>・集落のみんなからも目立つような場所を選んだ。</li> </ul>					
努力 (だれと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・ロ神父を中心にみんなで心を一つにしてつくった。</li> <li>・地元の青年と約10 km離れた山に入って材木を調達した。</li> <li>・土曜日、村に戻り、日曜日はミサ、そして月曜日に山。1年続けた。</li> </ul>					
努力 (工夫)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風が強い外海の気候を考えて、低い建物にした。</li> <li>・洋風建築で丈夫で実用的な建物にした。</li> <li>・ステンドグラスもなく、日本の伝統建築のあたたかさがある。</li> </ul>					
	<p>(技能・表現)</p> <p>A 見学や各種資料で調べたことをノートに分かりやすく整理することができる。</p> <p>B 見学や各種資料で調べたことをノートに整理することができる。</p> <p>C (整理することができない児童には、何を書けばよいか教師が具体的に助言する。)</p>					
	<p>T それでは、調べたことを開き合ひましょう。</p> <p>P (調べたことを発表する)</p> <p>※事前に子どもが短冊等書いたものを貼っておくスタイルでもよい。</p>					
まとめる	4 「建築」の工夫や努力についてまとめる。(10分)					
	<p>T ド・ロ神父がどのような願いや努力で出津教会をつくったのかわかりましたか？</p> <p>P はい。</p> <p>T それでは、今日のまとめをしましょう。</p>					
	<p>【まとめ】</p> <p>ド・ロ神父は、外海の人々の信仰を助けたいという願いをもち、得意の建築技術や外海の地形や気候の特徴を生かして、みんなで力を合わせて出津教会堂をつくりあげた。</p>					

(筆者(安田)作成)

# 【第11時】「まとめる 学習問題の答えをまとめる」展開案

「外海の出津集落が世界遺産になるまでには、人々のどのような願いや努力があったのだろうか」という学習問題に対する答えを考え、世界遺産に関わる世の中の仕組みを理解することができる。

通	教師の関わりおよび予想される子どもの反応
問題をとらえる	<p>1 今日めあてを立てる。(5分)</p> <p>T <b>学習問題</b> 提示</p> <p>P 前回は「長崎と大草地方の潜伏キリシタン関連遺産」について調べました。</p> <p>P 「潜伏キリシタン」のことがよく分かりました。</p> <p>P そろそろ「学習問題のまとめ」ができそうです。</p> <p>T それでは、今日は「学習問題のまとめ」を考えましょう。</p> <div data-bbox="257 662 1125 724"> <p>【めあて】 学習問題のまとめを考えよう。</p> </div>
見通しをもつ	<p>2 学習の見通しをもつ。(5分)</p> <p>T 「人々の願いと努力」ということでしたが、どのような人がいましたか？</p> <p>P 「ド・ロ神父」「赤宿シスター」「高橋さん」「日宇さん」「加藤さん」です。</p> <p>T それぞれの立場は、</p> <p>「ド・ロ神父」・・・先人</p> <p>「赤宿シスター&amp;高橋さん」・・・キリスト教のガイドさん</p> <p>「日宇さん」・・・出津集落の方</p> <p>「加藤さん」・・・県庁の方</p> <p>T 立場が4つですね。</p> <p>P 4つの時はXチャートです。</p> <p>T わかりました。「Xチャート」を使って人々の願いや努力をまとめましょう。</p>
解決する	<p>3 「4つの視点」について整理する。(20分)</p> <p>T それでは、人々の願いや努力を調べてノートにまとめましょう。</p> <p>これまでのノートや掲示物を参考にしてまとめてくださいね。</p> <p>P (ノートにまとめる)</p> <p>P (ノートに書き終わった児童はホワイトボードに書く)</p> <div data-bbox="316 1477 862 1597"> <div> <p>【願い】</p> </div> <div>→</div> <div> <p>【努力】</p> </div> </div>



(筆者(安田)作成)



## 【第12時】「考える 選択・判断②」展開案

『潜伏キリシタン関連遺産』に多くの観光客は必要か」という「選択・判断②」に対して、多面的・多角的な視点を用いて話し合い、自分の考えを表現することができる。

過程	教師の関わりおよび予想される子どもの反応
問題を捉える	<p>1 めあてを設定する。(5分)</p> <p>P 前は学習問題のまとめをしました。              P そして、まとめは「 」でした。              P 今日は2回目の議論をしたいです。</p> <p>T 2回目の議論をしたい…さすが議論好きなみなさんですね。              でも、議論って1回したでしょう。              P たしかにしたいけど、何も学習してないときの議論ですよ。              P あれからいろいろと学習したから、考えが変わっていますよ。              2回目の話し合いをしたいということですが、1回目はこんな結果でしたね。  <u>学習材1「選択・判断①の結果の結果(1回目の立場写真&amp;板書再現)」</u> 提示              P 覚えています。私は「必要である派」でした。              P 私は「必要ではない派」でした。でも、今は「必要だ」と思っています。立場が変わりました。              P ぼくは変わってないよ。              T 立場が変わった人、立場は同じでも理由が変わった人がいるようですね。              これまでの学習を生かすと、1回目よりもよりよい話し合いができそうですか？              P はい。              T それでは、今日のめあてを立てましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【選択・判断②】                  「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に多くの観光客は必要か。</p> </div>
見通しをもち解決する	<p>2 「選択・判断②」に対する考えをもち、話し合う。(15分)</p> <p>T それでは、話し合いを始める前に何をしたいですか？              P まず自分の考えをノートに書きたいです。              T これまでの学習を生かして考えるということですが、そのためには何を使いますか？              P 「社会づくりの目」を使います。              P 「ワークシート(立場思考)」を使います。              P 掲示物などの生かしたいです。</p> <p>T <u>学習材2「社会づくりの目」</u> 提示              なるほど、みんなが幸せになるための視点を使ってきましたね。とくに、これまで関わってきた人々には、「願い」をもっているけど、その逆として厳しい「現実」もあることがわかりましたね。              このような視点を使って考えてみましょう。              それでは、ワークシートに考えを書きましょう。</p> <p>P (ワークシートに選択・判断②に対する考えを書く)</p>

T 自分の考えをもつことはできましたか？

P はい。ネームプレートを貼りたいです。

T それでは、ネームプレートを貼りましょう。

P (ネームプレートを貼る)

P (ネームプレートの状況を見て…)

P 1回目よりも「必要だ」という人が増えているようです。

P いろいろな人の立場で考えて願いや現実が分かってきたからかな。

T それでは話し合いを始めますよ。

P (話し合いを始める)

#### 【予想される児童の反応と話し合いの展開】

##### 【多くの観光客が必要である】

- ・「日宇さん（地域の方）」や「赤岸シスター（教会の方）」が、多くの人にド・ロ神父やキリスト教のことを知ってほしいと言っていたからです。
- ・「中野さん（市役所の方）」も世界遺産にするために多くの努力をしてきたし、多くの方に長崎に来てほしいと言っていたからです。
- ・「観光客」の立場で考えると、やはり、世界遺産は一度見ておきたいので、多くの観光客が集まることは、自然のことだと思うからです。



「価値あるもの」だからこそ、多くの人に知ってほしい。

##### 【多くの観光客は必要ではない】

- ・観光客が必要なのは納得しているけど、「中野さん（市役所の方）」が言っていたように、急増するより、数が安定する方が大切だと思うからです。
- ・観光客が必要なのは分かるけど、ガイドさんが不足していたり、集落の雰囲気や壊れたりするなどの問題もあるから、あまり多くない方がよいと思います。
- ・大切なのは多くの観光客を集めることではなく、この集落をこれからも守り続けることだと思います。



「価値あるもの」だからこそ、そのままの姿ですっと守り続けたい。

「多くの観光客が必要」「必要ではない」というどちらの立場も、「世界遺産が価値あるものだからこそ」という願いに基づいている。

#### 3 資料を基に考えを深める。(10分)

深める

T なるほど、世界遺産という価値あるものに観光客が集まることには意味があるんだね。でも、その集め方には課題があるという考えにも納得できましたね。

P 話し合いがまとまってきたような気がします。

## ■看板集客大作戰

■世界遺産アートの旅

## ■見た目ピカピカ大作戦

## ■クイズで学ぼう! 潜伏キリシタンの歴史

## ■来てみんな！プロジェクト

## ■出津ガイドブックでアピール作戦

## ■マナーパンフレット大作戦

## ■ハンカチ・ティッシュ大作戦

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」保存活用実行委員会編集・発行『世界文化遺産 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 子ども向け学習素材検討にかかわる報告書』2019年、p.60.

